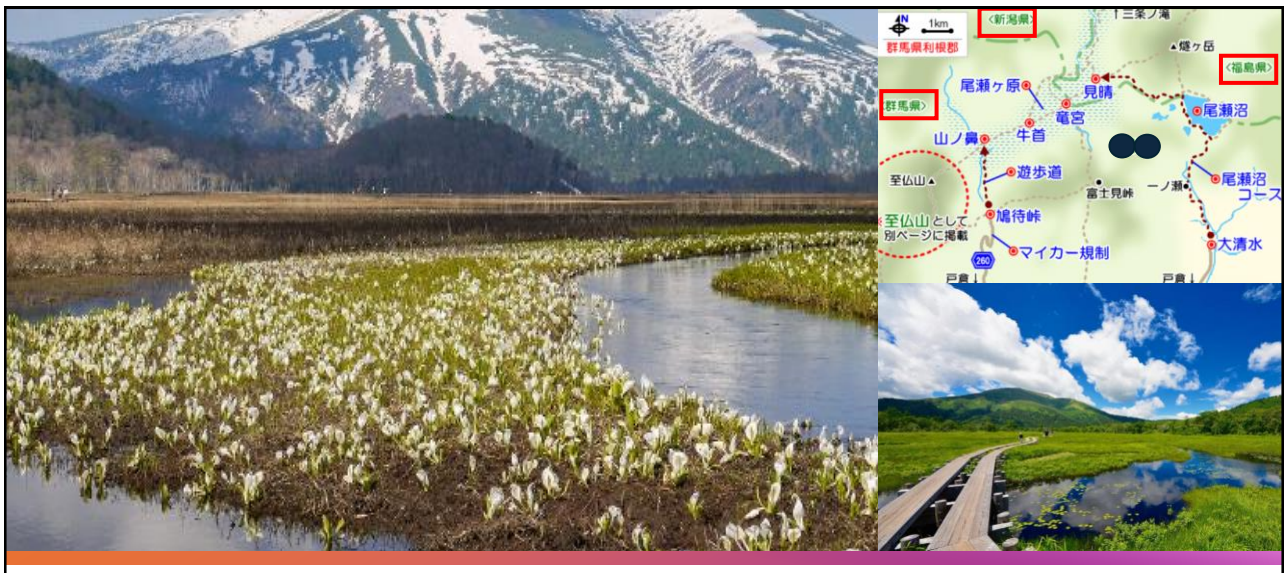
1



「夏がくれば 思い出す はるかな ●● 遠い空」

2

- 全国的な知名度を得るにつれて、尾瀬には多くの方が**美しい自然**を求めて訪れるようになりました。
- 多くの入山者が訪れるようになると、尾瀬では**ごみ問題**が大きな課題となりました。
- 道路拡張や**騒音、排気ガス**などによって自然へのダメージが大きくなりました。

（出典：福島県ウェブページ）

3

一度壊れた湿原を回復させることは大変なことです。
群馬県側に「アヤメ平」という場所があります。ここはかつて尾瀬のメインスポットとして多くの人々が訪れた場所でした。シートを敷いてご飯を食べたり、バドミントンをしたりと、湿原が踏み荒らされてしまい、植物は枯れ、土壌が流れて、植物が生育できない場所になってしまいました。

アヤメ平ではいち早く1966年（昭和41年）から保全作業が行われていますが、**55年経ってもいまだに回復していない**箇所もあります。

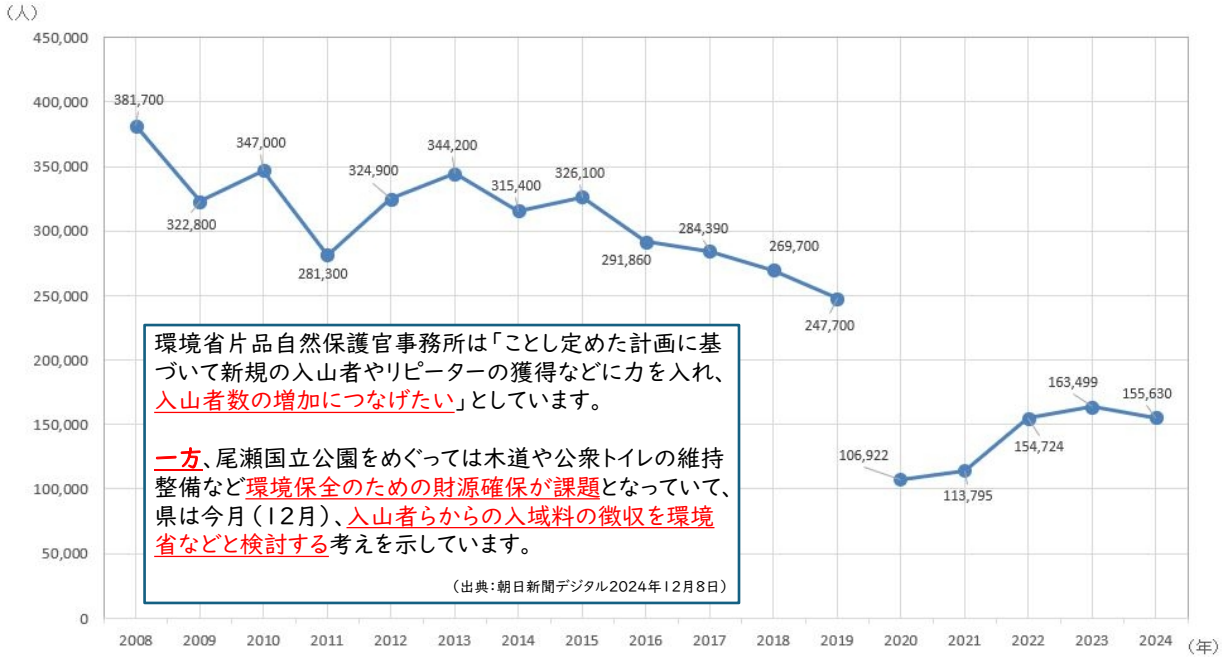
（出典：福島県ウェブページ）

4

木道設置で大変なのは維持管理です。木道の耐用年数は環境にもよりますが約10年。ヘリコプターで資材を運搬する以外はほとんど人力です。現在の相場では設置には片側1mで10万円以上の費用がかかります。また少子高齢化のため作業員の確保が年々難しくなっているようです。

（出典：福島県ウェブページ）

5



環境省片品自然保護官事務所は「ことし定めた計画に基づいて新規の入山者やリピーターの獲得などに力を入れ、入山者数の増加につなげたい」としています。

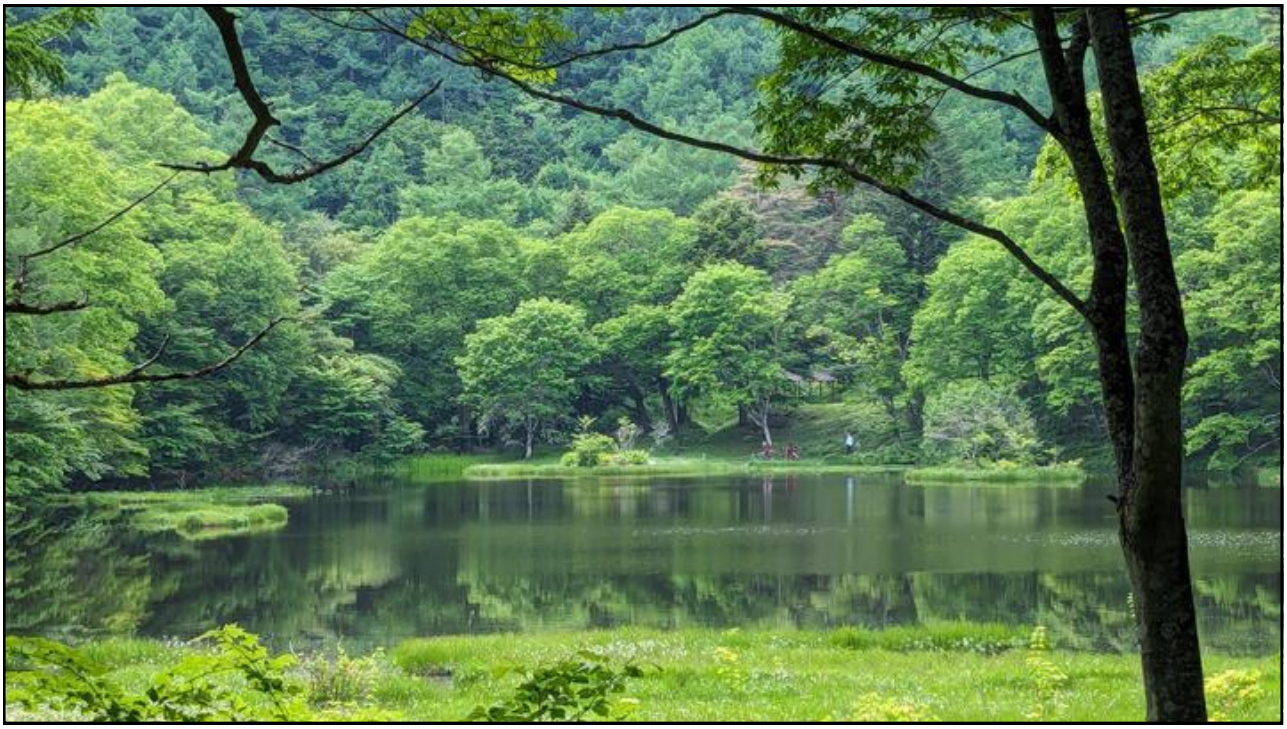
一方、尾瀬国立公園をめぐっては木道や公衆トイレの維持整備など環境保全のための財源確保が課題となっていて、県は今月（12月）、入山者らからの入域料の徴収を環境省などと検討する考えを示しています。

（出典：朝日新聞デジタル2024年12月8日）

図 尾瀬国立公園の入山者数の推移（参考）

（出典：福島県ウェブページ）

6



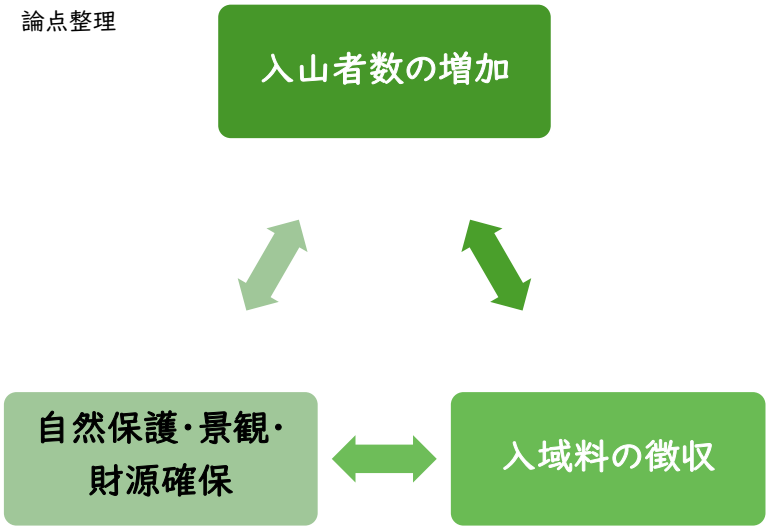
7

8

9

韮崎市の自然と地域活性化

論点整理



10